

今日のトピック 米国の金融政策（2017年11月） 緩やかなペースでの利上げを継続へ

ポイント1 政策金利は据え置き

全会一致で決定

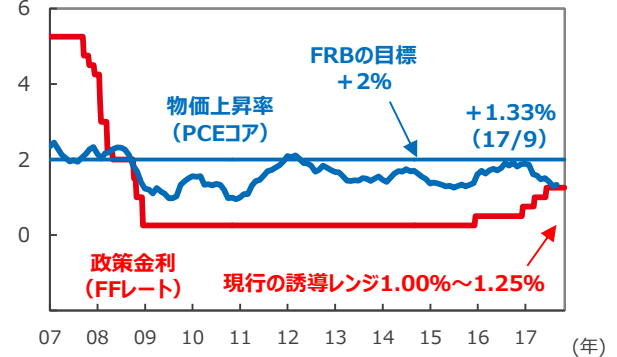
- 10月31日～11月1日に開催された米連邦公開市場委員会（FOMC）は、市場の予想通り、政策金利（FFレート）の誘導レンジを1.00%～1.25%で据え置くことを、全会一致で決定しました。

ポイント2 経済見通しは変更なし

景気の現状判断は上方修正

- FOMC直後に公表された声明文には、大きな変更はありませんでした。
- まず景気については、「ハリケーンの影響はあったものの、労働市場は引き続き拡大の勢いを増し、経済は堅調な速度で成長」と評価しました。前回の経済は「緩やかな成長」から上方修正されました。
- 一方、物価は、「ハリケーンの影響からガソリン価格は上昇したが、エネルギーや食品を除いた物価は引き続き軟調」と判断しました。
- 将来の見通しについては、「ハリケーンの影響は一過性であり、経済の基調そのものを変化させることはない」と述べ、「緩やかな景気拡大と物価上昇」という基本観に変化のないことを示しました。
- 10月に開始した米連邦準備制度理事会（FRB）保有資産の規模縮小プログラムは、「継続している」とされました。

【政策金利と物価上昇率の推移】



(注1) FFレートは2007年1月5日～2017年11月1日。2008年12月以降のFFレートは誘導レンジの上限を表示。
(注2) 物価上昇率は2007年1月～2017年9月。PCE（個人消費支出）コア物価指数の前年同月比。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【FOMC参加者の経済見通し】

項目	開催月	2017年	2018年	2019年
GDP成長率	9月	2.4	2.1	2.0
	(%)	6月	2.2	2.1
失業率	9月	4.3	4.1	4.1
	(%)	6月	4.3	4.2
物価上昇率	9月	1.5	1.9	2.0
	(%)	6月	1.7	2.0
FFレート	9月	1.4	2.1	2.7
	(%)	6月	1.4	2.1

(注) FOMCメンバー予測の中央値。GDPと物価上昇率は第4四半期の前年同期比。物価上昇率はPCE（個人消費支出）コア物価指数の上昇率。
(出所) FRBの資料を基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 次期FRB議長は「緩やかなペースでの利上げ」を継続する見通し

- 現地の有力メディアによれば、FRB次期議長にパウエルFRB現理事が指名される見込みです（現地11月2日に正式発表の予定）。金融政策に関しては、イエレン現議長の路線を引き継ぐと見られ、「緩やかな利上げ」を継続すると予想されます。
- 1日の米国市場では、FOMC声明文で景気判断が上方修正されたこと等から12月の利上げ観測が強まり、米ドルが主要通貨に対して上昇しました。一方、債券利回りは、パウエル氏のFRB議長就任見込みとの報を受け低下（価格は上昇）しました。

ここもチェック! 2017年10月30日 米国のGDP成長率（2017年7-9月期速報値） 2017年 9月21日 米国の金融政策（2017年9月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。